



# 防衛費を地震対策に！①

タイトルは、某新聞の読者投稿のページに使われたもので、これともう一紙の関連記事、個人的に思うことも含めて今回の記事としました。

## 災害のたびに露呈される 国の対策サボ！

東日本大震災時、避難所風景が報道され、関連して過去のフィリピンでの避難所風景が映

し出され、愕然としたことがあります。フィリピンのそれは、素材は分かりませんが、各家族ごとにパーティションで仕切られ、精神衛生的にも安心出来る

ものでした。それに比べて、我が国での様子は……。その時、率直に思ったのは、表現は良くないですが「おいおい、フィリピンに負けちゃってんのかよ?!」でした。この報道を見た誰もが、そう思ったに違いありません。それほど衝撃的な写真であったことを覚えています。

が、今年の能登半島地震での避難所の様子が、13年前と何ら代わり映えがしなかったことに、呆れたというか、強い憤りを感じました。北陸の寒い冬空の下、だだっ広い何処かの体育館で、ダンボールだかシートだか1枚敷いただけの床にお年寄りが座ったり、寝転んだり、しかも何の衝立もなく、プライバシー丸見えの状態に耐えている映像に涙が出そうになりました。先の台湾の地震での避難所も、家族ごとに箱型のテントが支給されていました。東日本大震災から13年も経っているのに、何も学んでいない政府の対応サボが、今回ひときわ多かった関連死を増やしてしまっただけでも過言ではありません。某新聞記事では、大学教授が「この状況はハラスメント状態だ。他の先進国ではあり得ない」と語っています。日本の避難所報道は、世界中の笑いものになっているのでは?!

## うたてつ ノススメ 30

### 0時5分の最終列車 (キャロル) 1973年5月

Here we are at the station

誓いの言葉 あの時かわし  
Run away tonight 二人で

Bag に詰めた かけおち道具  
Run away tonight 急いで

\* Here we are at the station  
心 走り 今 後ろ振り向かず

何処へ行こうか 最終列車  
Far away tonight 二人で \*

\* 繰り返し \*

当時の日本の音楽界では、突然変異的に出てきたグループ。4人の才能プロデューサーのミッキーカーチス、この内、一人でも欠けていたらこれほどの成功はなかっただろう。更に公式写真の独占契約をした篠山紀信も加わり、鉄壁のプロモーションであった。

これは6枚目のシングルだが、72年12月にデビューし、73年6月の7枚目まで月いちでレコードを発売するやり方は、世界中探しても例がなく、その販売戦略たるや、凄まじかった!!

作詞・ジョニー大倉、作曲・矢沢永吉。イントロなしのアカペラでいきなり始まる3声のコーラスが、超カッコイイ! 当時、ど田舎の中学生だったが「世の

中にこんなにカッコイイ瞬間があるのか」と度肝を抜かれたのも無理はない。それくらい衝撃的だった。勿論、今でも! 掲載した歌詞はこれで全部。シンプルだが曲同様、覚え易く、何度も言うがやはりプロデューサーの手腕もすごいと思う。当時の日本で、楽器のひとつひとつをこんな風に録音したなんて、それ以前はなかったはず……。鉄道ソングの王道? でもある駆け落ちソング、その王道? でもある夜行列車や最終列車を使うやり方も基本通り???

行く当てもなく、誓いの言葉とバッグひとつの荷物を持って最終列車に飛び乗った二人。不安もいっぱいだが「心走る」「後ろは振り向かない」ことで、希望へと変えようとしているのか。このバンドの音楽的なルーツは勿論、ビートルズ。矢沢はアマチュア時代にジャズ理論も学び、ジョニーは絶対音感の持主。ギターの内海はバリバリブルース。岡崎のドラムもタイトで、特にこの曲では独特のリズムパターンで列車の雰囲気を出している。